



高等商業教育ノ目的及方法

田崎, 慎治

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 1(6):751-768

(Issue Date)

1906-11

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051076>



高等商業教育ノ目的及方法

長崎高等商業學校教授

商業學士 田 崎 愼 治

高等商業教育ノ本旨ハ、商人ニ必要ナル判斷力ヲ養成スルニアリ。執務的技術ノ教育ハ其ノ副位ヲ占ムヘキモノナリ。案スルニ學校ニ於ケル商業教育ノ目的ハ、長キ間ニ於ケル勝利ヲ期スヘキモノニシテ、差當リノ利害ニ重ヲ置クヘキニアラス。例ヘハ茲ニ同年輩ノ二人ノ子弟アリ、其ノ一人ハ年齡僅カニ十歳ノ時早ク既ニ實務ニ從事シ、他ノ一人ハ十六歳マテ學校ニ於テ商業教育ヲ受ケテ後初メテ實務ニ就キタリト假定シ。此等二人ノ子弟ヲ其ノ十七歳ノ時ニ比較セハ、早ク事務ニ入リタル方遲レテ來リタル方ニ優レルヲ見ルヘキモ、此等二人ノ子弟ヲ二十四五歳ノ年齡ニ於テ相對照セハ其地位轉倒シタルガ如ク而カク教育ノ方針ヲ定ムヘキモノナルヘシ。此レ普通教育ノ場合ナルガ、高等教育ニ就テハ此ノ差異殊ニ著シキヲ見ルヘシ。例ヘハ一方ニ於テ十七歳マテ學校教育ヲ受ケテ實務ニ從ヒタル子弟ト、他ノ一方ニ於テ二十歳以上マテモ學校ニ留マリテ後商業ニ從事シタル人ト、此二

人ノ子弟ヲ其ノ二十三・四歳ノ時ニ比較セハ。勝利ハ早ク既ニ十七歳ノ時ニ商業ニ入リタル人ニアルヘキモ。此等二人ノ青年ヲ其ノ三十歳以後ノ年齢ニ於テ比較セハ。高等ノ教育ヲ受ケタル方遙ニ優勢ナルカ如ク而カク教育ノ方針ヲ定ムヘキモノナラン

如此最後ノ勝利ハ。多クノ場合ニ於テ。教育ヲ有シテ商務ニ従事スル人ニ歸スルカ如クナルヘシト雖トモ。若シ商業教育ノ主眼ヲ執務ノ細目ニ置キテ學校ノ方針ヲ定メ。實務ノ方面ヲ主トシテ教育ヲ施サバ。以上ト全ク反對ノ現象ヲ呈スルニ至ルヘキカ。故ニ最後ノ勝利ヲ目的トスル商業教育ノ方針ハ。當用ノ事務ノ技術ヲ副位ニ置キテ商人ニ必要ナル智識ノ訓練ニ重キヲ置クヘシ

現存セル實業界ノ勇將ニ就テ之ヲ見ルニ。僅カノ例外ヲ除クノ外ハ。其ノ藝術ハ成效ノ第一階段ヲ與ヘタルニ過キスシテ。彼等ヲシテ今日ノ地位ヲ得セシメタルモノハ。圓滿統轄ノ能力ナルコトヲ證スルモノ、如シ。是レ高等商業教育ノ主眼ニシテ。又高等商業教育ガ他ノ技術的教育ニ秀レテ。洋ノ東西ヲ問ハス大ナル將來ヲ有シ年ト共ニ益有爲ノ青年ヲ吸集シツ、アル所以ニハアラサルカ。斯ク言ヘハトテ。事務ノ技術ヲ無視セヨトノ意ニアラス。成功ノ第一階段ハ普通ノ場合ニ於テ

ハ採務的技能ニアルハ爭フヘカラス。是レ通常已ムヲ得サルノ事實ナレハ。之ヲ等閑ニ付スルハ成功ノ第一階段ヲ捨ツルニ等シク、從テ最後ノ勝利ヲモ併セテ捨ツルモノト言フヘキカ。我輩ハ決シテ執務的技藝ヲ無視セヨト言フ者ニアラズ、然レトモ。社會ノ要求ハ動モスレバ任ニ教育ニ直接或ハ間接ニ當レル者ヲ誘導シテ。妄リニ速急間ニ合的人物ノ養成ヲ催シ。當路者ヲシテ教育ノ本旨ニ遠カラシメントセルコト。其ノ類例不幸ニシテ乏シカラス。今ヤ本邦ニ於テ商業教育ノ流行年ニ月ニ盛ナルノ時ニ當テ海外ノ例ニ鑑ミ斯道ノ理想トスヘキ針路及其進行ノ方法トヲ考研スルハ目下ノ急務ナリ

余カ滯留シタルバーミングハム市ハ。英國ニ於テ最モ美術工藝品製作ノ盛ンナル所ナリ。市會議員中同市ノ美術學校ノ改革ヲ主張セル者アリテ其ノ意見ヲ演說シタルヲ聽キタルコトアリキ。話ノ題ハ『美術學校ノ商業的價值』話ノ趣旨ハ美術學校ハ實際家ノ意見ヲ容レテ其ノ方針方法ヲ變更シ間ニ合的人物ヲ養成シテ其ノ卒業生ノ雇主タルヘキ工業者ノ希望ヲ満足セシムヘシト言フニアリキ。討論終結ニ至ル能ハスシテ委員附托猶調査ヲ繼續スルコトハナレリ。而シテ之レニ對スル美術學校長ノ意見ハ。『是レ譬ヘハ當時社會ニ三文小説流行スルカ故ニ文科大學ニ

迫リテ其ノ方針ヲ改メテ三文の小説ノ教授ヲ主眼トシ以テ社會ノ需要ニ應セヨト誘フニ異ナラス。之ヲ容レハ全然學校教育ノ精神ヲ破壞シ去ルナリ之レニ盲從センカ、學校教育ナキニ加カス、余ハ斷シテ一步モ讓ルコト能ハズト、美術學校長ノ此ノ意見ニ我輩ハ贊同スルモノナリ

秩序アル學科ヲ編成シ統轄的ニ商業教育ヲ施ス場合ニハ、技術ニ重キヲ置カスシテ人物ノ養成ヲ努ムヘキモノナリトハ今日英國ニ於テ廣ク識者ノ認定ヲ經タリ。然レトモ餘リニ「アカデミック」ニ流レ實際ニ迂ク。所謂 Old Economists ガ一筋繩ノ學理ニ束縛セラレタルノ弊ニ遠カラントハ、各後進ノ經濟學者、各新進ノ大學ニ於テ大ニ努力セル所ニシテ大學教授ハ商工業社會ト近接シ事實ト學理ノ連絡ヲ求メテ、Old Economists ノ舊套ヲ襲ハサランコトヲ怠ラズ。又之レト同時ニ實際商工業社會ノ學校ニ對スル要求ハ如何アルヘキヤヲ思考シツ、進行セリ。又座上水練ノ誹ヲ救済スルノ一策トシテ現今成功セル商工業者等ヲ招キ講演ヲ依頼スルカ如キコトヲ試ミタリ。實業者ニ其ノ道ノ講演ヲ委嘱スルコトハ甚ダ望マシキハ疑ヲ容レスト離トモ此ノ點ニ於テ眞ニ成功セルハ蓋シ英國ニ於テハ獨リ倫敦經濟學校アルノミ。倫敦ハサスガ大都會ダケアリテ、學問ト實際トヲ兼備セル實業家ヲ

拔擢シテ夫々専門ノ商業學ヲ講演セシムルコトヲ得レトモ倫敦以外ノ大學ニ於テハ斯ル人物ヲ得ルノ困難ナルガ爲メ今ハ繼續セルモノナキガ如シ。本邦ニ於テハ此ノ困難ハ東京ニ於テモ之ヲ感スルナルベシ。現ニ實際ニ從事シ同時ニ教鞭ヲ探レルノ人物少ナキハ讀者ノ知ラル、所ナリ。英國ニハ學術的ノ職業ニ從事セル紳士ノ同業團體アリテ後進ノ指導ニ努メラレリ。而シテ此等ノ組合ニテハ自然好ク上述ノ實際ヲ離レサル學理研究ノ目的ヲ遂ケツ、アルカ如シ。例ヘバ其ノ團體ヲ有セル専門的職業ハ銀行、保險、法律會計 (Institute of Bankers, Institute of Actuaries, Institute of Insurance Associations in England, Inns of Court, Institute of Accountants etc.) 等ノ各種ニシテ。恰モ東京高等商業學校ノ專攻部ニ類似ス。最モ斯ル職業ヲ目的トシテ先進團體者ノ指導ニ就ク青年中ニハ既ニ新若クハ舊大學教育ヲ終リタルモノト然ラサルモノト混合セリ。而シテ此等ノ職業ニ現今從事セル人士中羽振り好キ優勝者ヲ數ヘ來レハ、嘗テ大學教育ノ素養アリテ猶更ニ進ンテ此等専門的技術ヲ究メタル人ニ先ツ指ヲ屈スルノ狀態ヲ示セルカ如シ。請フ之レヨリ英國ニ於ケル高等商業教育ノ内容ヲ略述シ其ノ目的及方法ヲ摘示セン。

余ハ倫敦滯在中一ケ年半倫敦經濟學校 (London School of Economics and Political

Science)ニ學ヒタリ。是レ夜學校ニシテ數年前倫敦大學ノ一部分トナレリ。今ヨリ七八年前此ノ經濟學校ヲ倫敦大學中ニ加ヘントノ議アルニ當リテ。此ノ經濟學校ニテハ、各學科目ヲ網羅シ一ノ商科大學トシテ晝間ニ教授スルノ制度ヲ採用セントノ議起リ。委員ヲ設ケテ調査ヲ遂ケタルニ。其ノ委員ノ報告ニヨレハ。其子弟ヲ商人タラシメントノ希望ヲ有セル實業家ハ「オフイス」ヲ以テ最良ノ養成所ト思考セルカ故ニ。若シ晝間教授ヲ施スヘキ學校ヲ倫敦ニ作ルモ之レニ入學シテ學事ニ従事スルノ子弟ヲ得ルコト難カルヘシ。最モ現ニ「オツクスフオールド」若クハ「ケムブリツヂ」大學ニ子弟ヲ入學セシメタル人多シ。而シテ此等ノ子弟ハ大學卒業後倫敦其他ノ商店工場ニ入リテ「オフイス」ノ事務ニ従事スル者尠カラズ。今倫敦ニ秩序整然タル高等商業教育ヲ施ス場所ヲ設ケハ。夫レニ依テ從來オツクスフオールド若クハケムブリツヂニ往ケル人種ヲ茲ニ引付クルコトヲ得ヘシトノ感アラシム。是レ誤レリ。何トナレハ、此等ノ大學ニ其ノ子弟ヲ送ル兩親ノ目的ハ。其ノ歴史アル舊大學ノ學風及知己ヲ主眼トシ學問ハ之ヲ次位ニ於ケルカ故ニ假令倫敦ニ新設セラレタル商科大學ノ學問上ノ價值ヲ認ムルモ容易ニ此等ノ子弟ヲ入學セシメサルベシ。

尤モケムブリツヂ或ハオックスフオールドノ卒業生ニシテ猶進デ政治經濟商業上ノ專攻ニ從事セントスル者諸學校ノ卒業生ニシテ猶研究ヲ繼續シテ敎職ニ從事セント欲スル者外國ヨリノ留學生等晝間ノ敎授ヲ利用スルモノナキニアラサルヘシト雖ドモ此等晝間學事ニ從フコトヲ得ルノ人ハ夜間ニモ差支ヘナキ人ナルヘケレバ寧ロ之ヲ夜學ノ大學トシテ經營シ「オフィス」ニ服務セル者ヲ主トシテ授業スルヲ可トストノ趣意ニヨリテ委員ノ報告ニ基キ之ヲ夜間學校トセリ。倫敦經濟學校ニ於テハ前掲晝間モ學事ニ費ヤスコトヲ得ル人種ノ爲メニ秩序的ニ各科目ヲ網羅セル制度ヲ設ケラレドモ其主トスル所ハ晝間商務ニ執掌セル人種ノ便利ヲ圖ルニアリ年來自己ノ就職セル事業ノ學理ノ方面ヲ其「オフィス」ヨリノ歸路ニ聽講シテ自己將來ノ進步ヲ期セル篤志ノ青年或ハ老年者生徒中ノ多數ヲ占ム其生徒ノ數幾千人銀行鐵道保險等各種ノ講演アルノ夜二十歲位ヨリ四五十歲位迄ノ「シルクハット」連中ドシ「講堂」ニツメカケ來ルヲ見ル敎師ノ側ニ就テ言ヘハ擔任講師中ニハ其擔任セル商業ニ現ニ從事セルアリ或ハ嘗テ實際ノ商工業ニハ從事シタル經驗ナキモノアリ聽講者ノ側ニ於テハ既ニ久年其ノ衝ニ當リテ幾多専門ノ材料ヲ有ス講義終リテ討論ニ入ルヤ其ノ光景一層佳致アリ要スルニ

教師ノ學理生徒ノ實際相結合シテ兩者ニ測量スヘカラサルノ趣味ト實益トヲ與ヘ。晝間執務ノ苦勞ヲ却テ講堂ノ研究ニ一掃シ去ルノ感アルヲ覺フ。蓋シ斯ノ種ノ學校ハ世界中其類例ニ乏シカラン。獨逸邊ヨリワザ々調査ニ來ルモノアル位ナリ。事情既ニ斯ノ如クナルヲ以テ倫敦經濟大學ハ其ノ方針教科目教授ノ方法等ニ於テ自ラ一定ノ方針アリ決シテ間ニ合的ノ教育ヲ目的トセサルヤ明ナリ、

獨逸人倫敦其他ノ市場ニ於テ英人ヲ商工ノ事務上ニ於テ壓倒スルコト次第ニ烈シキヲ加ヘ來レルカ故ニ英國子弟ノ自衛策トシテ英國ニ商業教育ヲ盛ナラシメサルヘカラストノ說原動力トナリシモノ、如ク何レニモセヨ商業教育ニ關スル調査一時英國ニ流行シタルノ當時ニ於テ、前掲倫敦經濟學校ニ於ケル委員ノ報告ニ依レバ倫敦ニ商科大學ヲ建設スルモオツクスフオールド若クハケムブリツヂ向キノ人種ヲ引付クルコト能ハサルカ。故ニ英國ノ利益トシテハ常ニ此等ノ老大學ニ商科ヲ設クルヲ得策トスト結論セリ。今ヲ去ル三年半前此ノ傾向ノ影響トシテ「ケムブリツヂ」ニ經濟ノ分科ヲ生メリ。恰モ其ノ時彼ノ地ニ遊ビ經濟科學長「プロフェツサー・マーシャル」氏ニ接シ聞ク所ニヨレハ『歷史的古大學ノコト、テ廣ク商業學科ヲ秩序のニ網羅セル商科大學ノ設立ハ爲シ得ル所ニアラズ』(又強ヒテ余ノ

所望スル所ニアラズ(從來心理學ノ分科中ニ包含セラレタル經濟學ヲ分立セシメテ一ノ經濟ノ分科ヲ作ルダケニ既ニ非常ノ苦心ヲ以テ之ヲ遂ケタリ)トノコトナリキ。先生ハ理論ニ偏セルノ誹アルヘキモ間ニ合的敎育ノ方法ト相去ルコト遠シ。又商業敎育隆興熱ノ餘響トシテオツクスフオールドニ於テモ「ケムブリヂ」類似ノ傾向ヲ生シタル結果ハ「ケムブリヂ」經濟ノ分科創立ニ一年遅レテ經濟ノ「デイブロマ」ヲ與フルノ講座設ケラル、ニ至レリ

斯ノ如ク舊老大學ニ於テハ古來襲踏シ來リタル習慣アリテ新生學問ノ研究上障害アルヲ免カレズ「モダルン、サイエンス」ノ十分ナル討究ハ之ヲ新進大學ノ設備ニ俟タサルヘカラサルノ氣運ニ遭遇セリ

ジヨセフ、チエムバレン氏ハ「バーミングハム」ヲ根據トシテ實業及政治界ニ立タルノ人ニシテ「バーミングハム」市公私ノ事業ニ關シテ巧勞甚多シ中ニ就テ末代不朽ノ偉業ハ「バーミングハム」大學ナルコト疑ヲ容ルヘカラス。氏ハ同大學ノ「チャンセラ」トシテ同大學ヲ今日ノ地位ニ運ヘルノ人ナリ。氏ノ經營セル同大學ノ所期ハ「モダルンサイエンス」ノ研究ニアリ。其ノ他ノ方面ニ就テハ之ヲ先進老大學ナル前掲二大學ニ譲リ以テ大學間ニ大體ニ於テ分業ヲ生シ各其ノ特長ヲ發揮スヘキ

ヲ明言セリ。去レハ工科ノ如キ既ニ長足ノ進歩ヲ爲セルモ其ノ商科大學ハ未ダ盛運ニ達セリト言フコトヲ得ズ、此ノ商科ノ創立亦氏ノ創意ニ出ツル所ニシテ内外ノ事情ニ考ヘ英國ニ商科大學ノ必要缺クヘカラサルヲ感シ自己ト經濟上同意見ナル英國紳士米國ノハヴァド大學ニ教鞭ヲ採レルヲバーミングハムニ招ヒテ商科經營ノ事ヲ托セリ。是レ卽チ現ニ商科大學長タルプロフエツサ、アシユレー氏ナリアシユレー氏ハチエムバレンノ囑ニ依テ英國ニ歸リ、一方ニ於テハ主立チタル商工業其他ノ實業家ノ意見ヲ徵シ。他方ニ於テハ歐洲大陸諸國ノ學校制度ヲ自ラ彼ノ土ニ渡リテ調査シ米國滯在中ノ經驗トヲ之ニ合セテ茲ニ今ヨリ四十有餘年前ニ一ノ商科大學ヲ創立シタリ氏カ徵シタル實業家ノ注文千差萬別トモ評スヘク其ノ取捨ノ權ハ一ニ先生ノ掌中ニ任セラレタリ。余先年リヴァプールニ遊ヒ日本名譽領事「ヘンリー、ヘメルリツク」氏ヲ訪問セリ。氏ノ自談ニヨレハ氏ハ「アントワープ」商業學校ノ出身ニシテ。今ヨリ四十年前徒手英國ニ渡リ「アントワープ」ニ於テ修得セル所ノ助ケニ依テ今日ノ地位ト富トヲ獲得シタリトテ「アントワープ」學校流ノ教育ヲ主張シ縷々數千言ヲ費ヤサレタルガ要ハ「商務ニ於テ現實ニ行ハレヲル通リノ方法ニ據テ教フルニアラサレハ商業教育ノ功ハ皆無ニ終ルヘク。嘗テバー

ミシグハム大學ヲ組織スルニ當リ、プロフエツサー、アシユレー氏來リテ余ノ意見ヲ叩カレタルコトアリシガ、氏ハ余ト甚ダシク意見ヲ異ニスル人ナレバ「バーミングハム」大學ニ在學セル君ハ之レニ依テ毫モ利スル所無カルベシト是レニ由テ見ルモ余ガ恩師プロフエツサー、アシユレーノ組織セル大學ノ方針ヲ窺フニ足ルヘキカ。ヘンリー、ヘメルリツク氏ハ本業ハ綿花仲買、而シテ公私ノ事業ニ關シテ「リバプール」ニ其ノ人アリト知ラレタル人ナリ。「リバプール」商業會議會頭タリシ時分ハ商業學校ヲモ主宰シタリシガ商業教育ニ關シテ同氏ト反對ノ意見ヲ有セル者代ハリテ同氏ノ地位ヲ占ムルニ至リケレハ氏ハ其ノ當時(昨年初メ頃)「リバプール」商業學校ト縁ヲ絶テリトノコトナリキ、以テ「リバプール」商業學校ノ方針ヲ知ルニ足ルヘキカ、

保護主義ノプロフエツサー、アシユレー英國保護主義ノ中堅タル「バーミングハム」ニ率先シテ商科大學ヲ創ムルヤプロフエツサー、マーシヤルノ流ヲ汲ンデ自由主義ノ鼓吹者タルマ氏ノ高弟チャブムン氏ハ自由主義ノ本場タル「マンチエスター」大學ニ商科ヲ組織スルニ至レリ、其ノ研究ノ方法ハ「ケムブリツヂ」ニ於ケルガ如ク理論ニ偏セズ、商業學ヲ秩序的ニ研究スル商科大學ニシテ「バーミングハム」ニ倣ヒ

タルモノト見ルコトヲ得ヘク、以上說ク所ニ依テ英國各種ノ高等商業教育ノ制度ガ商人ニ必要ナル高等ノ教育ヲ施シ圓滿ナル統轄的能力ヲ備フル人材ノ養成ヲ主眼トセルヲ推測スルニ難カラサルヘシ。其ノ研究ノ細目ハ今暫ク之ヲ措キ。大體ノ方針ニ就テ言ヘハ。三ケ年ノ日月ノ許ス範圍ニ於テ商業ニ必要ナル學科ヲ其ノ理論ト實際ノ方面トヲ指摘シ事物ニ臨ンデ判斷ヲ下スノ能力ヲ啓發シ徒ラニ座上ノ水練ニ流レ時間ヲ空費セサランコトニ努メラレリ。英國ニ於テハ先見ノ政治家及學者ノ盡力ト一部ノ有志實業家ノ贊助ト其ノ寄贈資金トニ依テ。主ナル都會ニ商科大學ノ設立ヲ見タレドモ。創立日尙淺ク教育ノ成績ノ良否卒業生ノ實際ノ價值ハ時日ノ經過ヲ俟テ之ヲ知ルヲ得ヘク今日未ダ事實上ノ解釋ヲ得タルニアラス。此ノ點ハ我ガ東京高等商業學校カ既ニ純然タル試驗的時代ヲ經過セルト同日ノ論ニアラス由來英國人ハ新事物ヲ採用スルニ果斷ナラサルノ觀アリ。新進大學ニ於テ新ニ創メタル高等商業教育ノ制度ノ如キ未ダ子弟ヲ吸集スルコト多カラス。然レドモ各大學ニ於テハ敢テ當分ノ不人數ニ失望セス、十分ノ熱心ト注意トヲ以テ近キ將來ニ於テ實業家ガ斯ル制度ノ價值ヲ認識シテ爭フテ其子弟ヲ入學セシムルノ時來ルヘキヲ確信セルモノ、如シ、而シテ各大學ノ入學志願者ハ追年

増加ノ傾向アリ

英國ニ於テハ高等商業教育制度ノ價值ヲ認識シテ其子弟ヲ入學セシメ二十歳若クハ其ノ以上マテモ學校教育ヲ繼續セシムルモノ今日ニ於テハ甚ダ少ナク商業教育ノ價值ニ就テ疑ヲ懷ケルモノ多シト雖モ然レドモ斯ル疑深キ英國ニ於テモ高等商業教育ナルモノハ差當リ間ニ合フ體ノ人種ヲ作り出スヲ目的トセスシテ人材ノ陶養ヲ以テ進ムヘキモノナリトノ說ハ多數者ノ間ニ認定セラレラルガ如シ

生徒ノ年齡學科ノ程度及教育ノ目的等何レノ方面ヨリ見ルモ英國ノ商科大學ハ我ガ國ノ高等商業學校ニ相當セルモノナリ。蓋シ其兩者間ノ差ハ我レノ修業年限四ケ年ナルニ比シテ彼レノ修業年限三年ナルニアリ。英國商科大學ノ「プログラム」ヲ見ルモノ其科目簡單平易年數割合ニ短カキガ故ニ本邦人ハ英國大學ヲ以テ間ニ合的人物ヲ作ル所ナリトノ考ヘテ起スモノアレドモ是レ大ナル誤ナリ。其ノ「プログラム」ハ複雑ナラスト雖モ必要ナル學科目ハ概テ之ヲ漏サス大學ニ於ケル工科、文科等ノ學科目中商業ニ必要ナルモノハ商科學生ヲシテ選擇出席セシム（之レト同シク工科文科ノ人ニシテ商科ノ授業ニ出席スヲ者モ尠カラス）彼レノ修業

年數ハ我ガ高等商業學校ニ比シテ一年ダケ短カキモ之レヲ以テ我カ高等商業學校モ三ケ年ヲ以テ足ルヘシト考フル者アラバ夫ハ當ラス。英國ノ社會ハ我ノソレヨリハ高度ニアリ。彼ノ空氣ハ我レノソレヨリハヨリ多ク商工の分子ヲ含ム從テ大學新入學者ハ社會ノ感化ニ依テ既ニ日本ノ新入學者ヨリモ多クノ商工教育上ニ便宜ナル知識ヲ有セルカ故ニ學校教室ニ於ケル講義中省略シ得ヘク從テ時間ヲ節シ得ル點少カラズ。既ニ述フル所ノ倫敦經濟學校ハ其ノ極端ノ一例ニシテ其他ハーミングハム、マンチエスタール、リバプール、リーズ等ニ於テモ大ニ此ノ事實アレハ余ノ親シク目撃スル所ナリ。之ニ加フルニ英國人ハ其ノ獨佛等ノ歐羅巴語ニ要スル時間數ハ本邦人ガ英獨等ノ歐羅巴語ニ要スルヨリモ比較的少時間ニテ同等以上ノ目的ヲ達シツ、アリ。職ニ教育ノ任ニ當ル人ノ Quality ハ其ノ學校ノ修業年限ニ影響ヲ及ホスコトヲ得ルハ爭フヘカラス。各教師ノ分業明カニ行ハレ。其ノ各自ノ負擔セル學科ニ精通セル數多ノ教師ヲ有スル學校ハ比較的短時日間ニ同等以上ノ功果ヲ收メ得ヘキヤ明ナリ。之ヲ要スルニ英國ノ大學ハ三ケ年ナルカ故ニ日本ノ高等商業教育モ亦三年ニテ足レリトノ論ハ當ヲ失ヘリ。高等商業教育ノ理想斯ノ如シ。而シテ普通商業教育ノ程度ニ於テハ比較的多クノ時間ヲ日常ノ執

務的科業ニ費ヤスコト勢ヒ已ムヲ得サルヘシト雖モ其ノ方面ニ傾向キ過キテ上
述ノ高等教育ニ包含サルヘキ精神ヲ沒却スルトキハ單ニ機械的人物ヲ作出スノ
患ヲ免カレサルヘシ、而シテ是レ抑モ教育ナルモノ、本旨ニハアラサルヘシ

人材ノ養成ヲ主眼トスルカ故ニ其ノ教育ノ方法ハ須ク啓發的指導的ナラサル
ヘカラズ決シテ注入的盲從的ナルコトヲ許サス、然ルニ現今我國ニ於テ行ハル、
有様ヲ見ルニ悉ク而シテ十分ニ啓發的指導的ノ方針ニ沿フテ進ミツ、アリト言
フコトヲ得ヘキカ。果シテ指導的ノ方針ニ依ルトキハ生徒ニ自修時間ヲ與フコト
今少シ多カラサル可カラス從テ學校ニ於ケル毎日ノ授業時間ハ蓋シ現今ノ如ク
多時ナルコトヲ許サ、ルヘシ、ナルヘク講義ノ時間ヲ多クシテ筆記帖ノ厚サヲ増
大スルニ努メ生徒自ラ研修ノ活人士タラシムルノ餘地ヲ奪ヒ、其ノ Originality ノ發
揮ヲ障害シテ筆記ノ奴隸タラシムルハ知能ヲ開發シ人材ヲ養成スル教育ノ方針
ヲ破壊スルモノタルヘシ而シテ憂フ是レ今日我國ニ於ケル多數者ノ通弊ニハア
ラサルカ、教育ノ任ニ當ルモノハ生徒ニ向テ事物ヲ秩序的ニ討究スルノ筋道ヲ開
キ、自己ノ創思力ヲ發揚セシムルヲ意トセサレハ教育ハ一ノ死セル教育トシテ終
リ徒ラニ物知リテ實用ニ迂キ人物ヲ出スノ誹ヲ免カレサルヘシ。商業教育ノ要ハ

事業ニ必要ナル統轄的能力ヲ有スル人材ヲ得ルニアリテ多クノ事物ヲ知リヲルノ人ヲ得ルヲ目的トセサルヤ勿論ナリ。本邦學生ニシテ「オリヂナリチ」ノ發揮ニ心カケ。成功セルモノナシトセス。又彼ノ國ノ學生間ニモ筆記帖盲從者ナキニアラサレトモ我輩ノ通覽スル所ニヨレハ此ノ點ニ於テハ彼レガ我レニ優レルコトヲ感シタリ。是レ蓋シ他ニ原因アルヘキモ教育ノ方法ノ差異ハ其ノ大原因タラサルヘカラス

稍完全ニ近キ設備ノ大學成リテ而カモ之ヲ利用スルニ躊躇セル。而シテ其ノ教育ノ任ニ當ルモノ苦心學校經營ニ盡力セルノ國柄ヨリ歸來リテ近年殊ニ著シク増加セル公私新設高等商業教育ノ設備及ヒ其ノ就學者ノ増加ヲ見ル實ニ壯快ノ感ヲ禁スル能ハス況ンヤ不肖斯ノ局ニ當ルノ身ナルニ於テヲヤ。之レト同時ニ私ニ考フ。其ノ導ク者導カル、者果シテ正シキ軌道ニ在ルヤ否ヤ。學校經營ノ當局者果シテ正ニ有スヘキノ劃策アルヤ否ヤ。新設サレタル私立大學ノ商科及高等商業學校カ果シテ從來ノ弊ヲ避ケテ其ノ利ニ就ケルヤ否ヤノ疑ナキ能ハス。新設私立商科大學ノコトハ今之ヲ措キ。新設高等商業學校ニ就テ之ヲ視ルニ其ノ外形及內容ニ於テ著シク舊設ノ學校ト異ナレルヲ見ル四年ノ年數ヲ短縮シテ三年トシタ

ルカ如キハ其ノ外形上ノ著シキ變更ト云フハシ三年ノ年限ハ本邦殊ニ片隅ノ地ニ設立セラレタル高等商業教育ヲ施スニ十分ナルヤ疑ハシ、又一方ニ於テ古設ノ學校ニ於テスラ其ノ毎日ノ授業時間多キニ過キタリト信シタルニ。新設學校ニテハ更ラニ著シク其ノ毎日ノ授業時數ヲ増加セリ。是レ毎日ノ授業時數ヲ増加シ以テ年數ノ短縮ヲ埋メ合シタルモノ、如ク一見當然ノコトナルカ如ク考ヘラルヘキモ。夫ハ餘リニ數理ヅクメノ計算ニ重キヲ置キテ人性ヲ機械視シタルヨリ生セル誤謬ニ外ナラス。讀者ノ知レルガ如ク英國ニ於テハ普通勞働者ノ勞働時間十時間位ナリシヲ九時間ニ短縮シタルニ其ノ勞働ノ成績ハ一部ノ資本家ノ憂ヒシカ如ク十分ノ九ニ非スシテ十分ノ十若クハ其ノ以上ナルコトヲ發見セリ日本ニ於テモ斯種ノ經驗ヲ爲シタル紡績會社アリト聞ク。今ヤ英國ニ於テハ八時間勞働ノ主張ヲ爲スモノアル位ナリ。紡績工業ノ如キ多クハ自働的機械ニ依頼シテ作業セル勞働ニ於テスラ勞働時間ノ短縮ヨリ生スル功果既ニ斯ノ如シ況ンヤ頭腦ヲ働カシムヘキ筈ナル(今日ノ方法ニテハ授業時間中手ノ方多ク働ケルノ觀アレトモ)教室ノ仕事ニ於テハ宜シク時間短縮ノ必要アルヘシ、要ハ短時間ニ十分ノ働キヲ爲スヲ利益トス。ノベツ幕ナシニ時間ヲ長クシテ勞力ノ功果舉ルヘシト思ヘルハ

第一卷 (七六八)

論說

高等商業教育ノ目的及方法

第六號

四六

矯正スヘキ我通弊ノ一二ハアラサルカ。